

八尾地域

まちづくりと公共施設の「これから」を考えるワークショップ

6月30日(日)に開催しました第1回ワークショップについてお知らせします！

本市では、人口減少と超高齢社会の本格的な到来に伴い、今後ますます財政状況が厳しくなることが予想されており、このまますべての公共施設を維持し続けることは明らかに困難な状況となっています。

こうしたことから、限られた財源のなかで、将来にわたって公共施設の適切な維持管理を行うため、施設の再編など「公共施設マネジメント」の取り組みを進めていますが、施設の再編については地域の皆様に様々な想いやご意見があることも承知しておりますので、地域の皆様のご意見を踏まえ、計画を策定していきます。

今年度は、八尾地域・細入地域の公共施設のあり方について、地域にお住まいの皆様と富山市がともに考えるワークショップを開催し、このワークショップで出たご意見や地域の実情などを受け止め、「地域別実行計画」（次ページ参照）の策定に反映させるとともに、地域の皆様が住み続けたいまちづくりを進めていきたいと考えております。

こちらの「ニュースレター」は、ワークショップで検討されている内容をお知らせするとともに、広く地域にお住まいの皆様のご意見を募集するため、お配りするものです。

富山市における公共施設の現状と課題

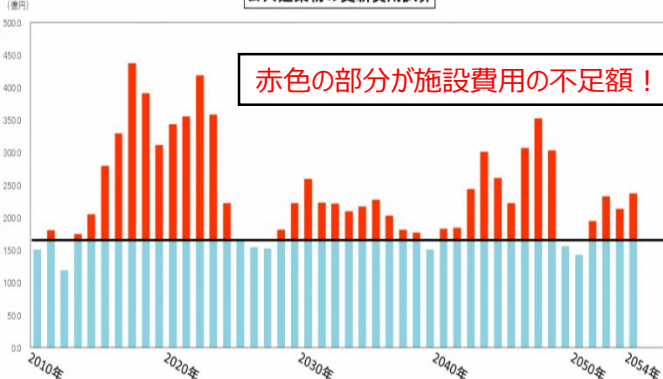
◆ 公共施設の老朽化

富山市の公共施設の築年別整備面積を見ると、全体の40%がすでに建築後30年以上経過しています。

これらの築30年を超える建物は今後、大規模修繕や建替えが必要となり、多額の費用が必要となることが想定されます。

今ある公共施設をこのままの規模で維持すると、今後40年間で約3,300億円、年平均82.5億円が不足すると見込まれます。

公共建築物の更新費用試算



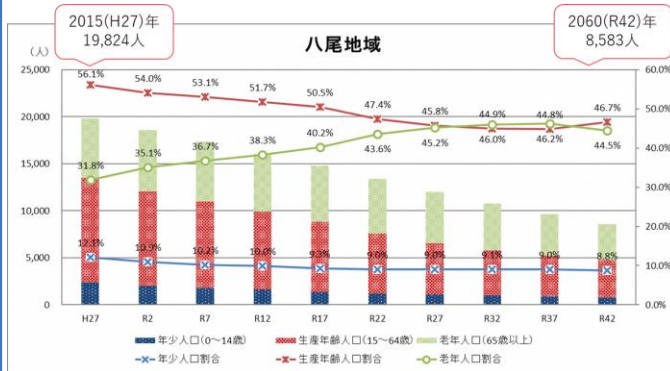
※横線は直近の公共施設への投資額の平均
 ※出典：富山市公共施設等総合管理計画

◆ 人口減少

富山市の人口は、令和42年（2060年）には、現在から10万人以上減少し、約302,000人になると推計されています。

なお、八尾地域では、令和42年（2060年）には、現在の人口の半数以上が減少し、8,583人になると推計されています。

人口減少、そして少子高齢化の進行により、市税などが減収し、公共施設にかけられる費用はますます減少することが見込まれます。



※出典：富山市公共施設マネジメントアクションプラン戦略編

地域別実行計画の策定

地域別実行計画は、「富山市公共施設マネジメントアクションプラン」に基づき、地域の実情やニーズを踏まえ、公共施設の再編に向けた方針を定めるものです。

地域別実行計画は、「地域の将来的な公共施設の再編方針」と「優先して取り組むべき個別具体施設の整備方針」で構成されます。

地域別実行計画

地域の将来的な公共施設の再編方針

施設の用途別に、将来にわたる整備方針を定めます。公共施設における課題だけでなく、地域の課題や特徴、まちづくりなど、より地域の実情を反映させます。

優先して取り組むべき個別具体施設の整備方針

地域の公共施設の中でも優先的に取り組む必要のある施設を選定し、地域の将来的な公共施設の再編方針よりも具体的な整備方針を定めます。

ワークショップの流れ（予定）

R1 7月～12月

行政
(富山市)

進め方
下調整

ステップ1
進め方・目標合意
課題と解決策検討

ステップ2
課題解決のための
整備方針検討
優先取り組み施設
検討

ステップ3
優先取り組み施設の
整備方針案等の検討

ステップ4
地域別実行計画の
検討

決定

地域の皆様とのコミュニケーション

第1回Ws (6月)

- 進め方・目標の確認
- 検討対象施設の確認
- まちづくりと公共施設の課題の検討
- 課題解決のための整備の方向性検討

ニューズレター

第2回Ws (8月)

- 課題解決のための整備方針の検討
- 優先して取り組むべき施設の検討

ニューズレター

第3回Ws (10月)

- 課題解決のための整備方針の検討
- 優先して取り組むべき施設の具体的な整備方針案の検討

ニューズレター

オープンハウス

第4回Ws (12月)

- 優先して取り組むべき施設の具体的な整備方針案の検討
- 地域別実行計画案の検討

ニューズレター

オープンハウス：住民の皆様が集まる施設などで行うパネル展示型説明会です。ここでも意見をお聴きします。

八尾地域 第1回ワークショップが開催されました

6月30日（日）、八尾健康福祉総合センターにて、「八尾地域 第1回まちづくりと公共施設の「これから」を考えるワークショップ」が開催されました。八尾地域にお住まいの32名の方が参加され、活発な意見交換が行われました。

今回のワークショップでは、4つのグループに分かれ、ワークショップの進め方の確認と、八尾地域のまちづくりや公共施設の現状と今後について課題だと感じていることについての議論が行われました。最後には全体で議論した内容を共有し、第1回のワークショップを終えました。



第1回ワークショップの様子

第1回ワークショップで皆様からいただいたご意見

◆ 計画検討やワークショップの進め方について

■ 地域別実行計画の考え方や検討の進め方

- 地域として残していった方が良い施設を見極めていきたい。
- 施設総量を減らしていかなければいけないということは理解できた。地区ごとに事情があると思うので、合意できると良い。
- 利用率が低い、利用が減っているという根拠に、市の平均値との比較が用いられているが、それ以外の数値はないのか。
- 利用率に注目すると、築年数を考慮すると、二つの視点で施設再編の検討をしていきたい。
- 普段使っていない施設、知らない施設がたくさんあった。利用率の低い施設は、地域の方々と相談しながら廃止等の検討をしていければいいのではないかと感じた。
- 八尾は新しい施設が多いので、すぐにはなく使いながら築年数に応じて少なくしていくという方向性が良い。
- 買い物と一緒に、一箇所に多くの機能が合った方が人が集まり使いやすいと思う。核となるエリアを絞って、施設を集めることでそれぞれの施設の利用率も上がるのではないかと。
- もっと施設をアピールして利用率をあげる視点も大切だ。
- 統合や廃止によって空いた建物や土地をどう活用するかということ考えた上で、施設の再編を検討すべきだ。

■ ワークショップの進め方

- 費用対効果を考えて、なくした方が良いという意見を行政は求めているように思う。
- 今ある施設を縮小することを目的としているのか、利用率を高めるためのアイデアを出すことを目的としているのか。
- このワークショップが単なるガス抜きにならないようにしたい。建設的な議論ができると良い。
- 今後の議論の方向性がわかると意見が言いやすいので、昨年度の大山や大沢野地域でどんな話し合いがされて、最後はどういう結論になったのかを示してもらえると良い。
- 施設数が多いので分類ごとに1つ1つ話をすると時間がかかる。限られた時間なのだから、効率的に進められる様に、市側で検討する施設を整理して示した方が良い。
- 老朽化が進み、耐震性にも問題が出ている施設を対象に話し合ったら良い。
- 利用者数が少なく、稼働率が低くても、まちにとって大事な施設はある。そういう施設とコスト削減を重視して再編を検討していく施設とを分類した上で議論してはどうか。

◆ まちづくりの現状と課題

■ 子育て・人口減少対策

- 子どもの遊べる遊具が地域全体で少ない。公園や運動場など自由に使える場所が少ない。
- 檜尾小学校は全てのクラスが複式学級となり、人数が少なくなっている。
- そもそも人口減少に対策を打たないといけないと思う。子どもが生まれたら祝い金を出す、また、学費がかからない等、子育てしやすい地域にしていけば、人口減少は避けられるのではないかと。

■ 生活圏の維持

- 中山間地域においては若者が減り、高齢者が多くなっている。人口が少なくなったからといって施設を減らしてしまうと災害時の避難所や集会をする場がなくなり、生活に支障が出てきてしまうのではないかと。
- 中学校が無くなると地域行事の開催場所がなくなる点や、避難所がなくなる点で地域住民の生活にも影響が出る。
- 施設が地域から無くなり、地域の過疎が進むことは避けたい。

■ 防災・避難場所

- 避難所によっては建物の耐震性に課題があったり、低地や川の近くなどに立地していることでの不安があったり、避難場所が遠くにあることによる高齢者のアクセスの問題もある。
- 公共施設を減らしていく必要性は理解できたが、避難所など防災対策として必要な施設、特に、山間部にこそ、いざというときに避難できる施設が近くにある状態が望ましい。
- 避難所として施設を残すとしても維持管理には費用がかかる。すべてを残すのではなく、施設を絞ってしっかり防災機能にも予算を配分できるようにした方が良い。

■ 公共施設の多さ

- 合併前に施設を多く作った年があり、課題となっている。施設が多いことで維持費がかかるので、老朽化した施設は安全面も考慮してなくすことも検討した方が良いのではないかと。
- 施設の統合により、コストを縮減し、縮減した分が残った施設の機能をより向上させ、利便性やサービスの質を上げていく発想が地域全体から見ると大事ではないかと。

◆ 公共施設の現状と課題

■ 集会施設

- 各地区の公民館が地区住民の活動拠点となっている。現在の公民館は各地区にある現状のままが良いのではないかと。
- 八尾地域は、お祭りや地域行事への想いが強く、住民同士のつながりが深い地区が多いと思うので、急に自分たちの地区の集会所がなくなるという話になると抵抗感も出てくるはずである。
- 八尾地域は面積が広いので、一律それぞれの小学校区に1つの公民館にするというのは難しいかもしれない。
- 避難所としての機能もあるので地区ごとに必要だ。
- 人口減少などを理由に小学校の統廃合が進んでいるので、公民館の統廃合も必要になってきていると思う。改めて役割や必要性を議論したうえで、廃止等を検討するべきだ。
- 黒瀬谷公民館と黒瀬谷交流センターが近くにある。住民が減少している中で2つの施設を維持するのは難しくなっている。
- 黒瀬谷公民館と黒瀬谷交流センターは統合しても良いかもしれないが、管轄が違うと思うので難しいのではないかと。
- 黒瀬谷交流センターは畳の部屋がない。使う用途によって必要になるのではないかと。
- 以前、地区の公民館で畳の部屋を整備したが、現在その部屋はシートを敷いて机と椅子を使用している。
- 卯花公民館と八尾農村環境改善センターは、同じ地域にあって築年数も経っているため、時機をみて一つにできるのではないかと。
- 保内地区と杉原地区は平地だし、中学校が統合されることも考えると、集会施設を統合する可能性があるかもしれない。

■文化施設

- ・杉風荘は、おわら風の盆の時に利用されているが、普段使える施設なのか分からない人が多いと思うので、周知が必要だ。
- ・杉風荘など、利用率の低い施設は民間に売却するなど、民間活用を促すという方法もあるだろう。
- ・杉風荘は、地元にとってシンボリックなものだったので残してもらったという過去の経緯がある。
- ・図書館は分館もあるが、八尾図書館と統合しても良いのではないか。八尾美術保存館や八尾化石資料館は現在、休止中や期間を限定して開館している。人に見てもらうためにも人の集まる場所へ移転するのが良いのではないか。
- ・八尾美術保存館や八尾化石資料館は、現在の立地のままにするのであれば利用率を上げる方策を考えた方が良い。
- ・八尾化石資料館は、市が維持をするのも大変であろうから、例えば、運営を民間に任せると、ひと工夫してもらえば、利用率が上がったり、開館期間についても変わってくるのではないだろうか。
- ・八尾化石資料館の隣には、市が運営している無料のパークゴルフ場や、マウンテンバイクに乗ることができる施設がある。一体的に民間委託をするなどして魅力的な空間にしても良いのではないか。

■スポーツ施設

- ・八尾パインパークやスポーツ・カヌーセンターは、積極的にPRして利用率をあげていければ良い。
- ・スポーツ・カヌーセンターは、立派なカヌーコースがあるので、合宿の誘致などによって活用できれば県外の人にも訪れる施設になり得る。
- ・八尾ゆめの森テニスコートは、中学生が使っているのを見かけるが、中学校が移転してしまうと、利用率が下がってしまうのではないか。それならば新しい中学校から近い場所に、一般の人にも使えるようなものがあつた方が良い。
- ・スポーツ施設は古くなると足が遠のく。古い施設にコストをかけるのはもったいない。

■保健施設

- ・八尾健康福祉総合センターで福祉系の手続きをしているが、地域福祉課は別の所にあるので2箇所に行かなくてはならないため不便だ。1箇所ですべて済ませられると良い。
- ・八尾健康福祉総合センターは避難所になっているが、川に近いので大雨の時に避難するには不安がある。

■レクリエーション・観光施設

- ・曳山展示館は、観光施設としてだけではなく、旧町の打合せ・会議の場としても利用されている。
- ・曳山展示館と八尾おわら資料館は、観光施設と資料館として、よく連携をとっていると思う。ただ、八尾地区以外の人からすると八尾地区住民とは思ふことが違うかもしれない。
- ・展示館や資料館などの施設は、八尾の旧町のエリアに複数配置した方が回遊できて良いと思う。八尾化石資料館や八尾美術保存館も旧町に持ってくるのが良い。
- ・民間に任せられた方が、より来訪者を増やせる運営ができるのではないか。
- ・ほたるの里農村公園は、仁歩地区の自治振興会が運営に携わっている。人口が減少しているため、今後も続けていけるのかという不安がある。
- ・ほたるの里農村公園は、ほたるの時期以外に行っても楽しめないため、年間を通して人を呼ぶのは難しいと思う。
- ・ほたるの里農村公園は、利用率をあげるための広報に力を入れた方が良いのではないか。

■小学校・中学校

- ・樫尾小学校は、児童数も少ないため、空き教室等の利活用の検討を進めたい。地域の行事などにも使えるようにするのが良い。
- ・小学校の統廃合も検討しないといけない。
- ・杉原中学校の跡地を地区住民としていかに活用するかが課題となっている。緑地やスポーツ公園として活用できないか。

■産業系施設

- ・白木峰山麓体験農園は、周辺にジビエ料理の店があつたりするので、そういう所と連携して民間で運営していくことが考えられる。

■庁舎等

- ・八尾行政サービスセンターの機能は残したい。
- ・八尾町のシンボルではあつたので新しく建替えてもらいたいが、それが叶わないのであれば、どこかの施設に統合されて、機能を充実させるという考え方も良いのではないか。
- ・新しくできる八尾公民館に機能を移転してはどうか。
- ・八尾健康福祉総合センターと複合化したら、福祉の部署と連携がとりやすくなる。
- ・行政サービスセンターは更地にして土地を売り、利用率の低いふらっと館に移転させるのが良いのではないか。

ご意見募集

ワークショップに参加される方だけでなく、多くの八尾地域の皆様の意見を今後の計画に反映させたいという考えのもと、ご意見を募集します。

- **ワークショップで検討されている内容について**
- **八尾地域のまちづくりや公共施設について**

下記の「お問い合わせ先」まで、メール・ファックス・郵便・持参により、どうぞお気軽にお届けください。差し支えなければ、ご住所、お名前、年齢、性別、連絡先の記載をお願いします。

お問い合わせ先

富山市企画管理部行政経営課
電話：076-443-2021
ファックス：076-443-2170
E-mail：gyousei-01@city.toyama.lg.jp

皆様のご意見をお待ちしています！



公共施設マネジメントに関する情報

富山市の公共施設マネジメントに関する情報はHPでご紹介しています。

<http://www.city.toyama.toyama.jp/kikakukanribu/gyoseikeieika/sougoukanrikeikaku/sougoukanrikeikaku.html>